

SDGs × 西中 誰ひとり取り残されない

氏名： 児島 正子 学校名： 吹田市立豊津西中学校
 担当教科： 美術 実践教科： 総合的な学習の時
 時間数： 6時間 対象学年： 第1学年 人数： 140人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんが、たった一人で始めた学校ストライキ。またたく間に世界中の若者たちの間に広まった。彼らは「地球にスベアはない!」「私たちの未来を燃やさないで!」とプラカードをかがげ、彼女に賛同した。このように若い世代はSDGsへの関心が高く、自分たち自身の問題だととらえている。

現在の社会システムでつくられた気候危機、差別や不平等、貧困は、日本で暮らす私たちにとっても「遠い国」の話ではない。「SDGs × 西中 誰ひとり取り残されない」では、私たちの日常と「気候危機、多文化共生、貧困・平和」とのつながりを考える。そして、私たちの社会のしくみを問い直し、声を上げ、行動する、持続可能な未来を創造し、挑戦し続ける力を育てる。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする
	(イ) 思考・判断・表現	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う

【3】 単元設定の理由 ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容	<p>明るく素直な生徒が多く、学習や行事でも前向きで、楽しみながら新しいことに挑戦することができる。これまでの「総合」の授業においても、「国際理解」に関心をもつことができた。また、ゲストティーチャーの方々とのお会いを通して「異文化」に触れ、積極的に関わり合いをもち、素直に思ったことや考えたことを発表や感想にまとめることができた。</p> <p>2学期からは、これまでの取組みを生かして「SDGs」に関して、より深く探求でき、主体的・協働的に課題を解決していけるよう内容とした。「SDGs」の内容は多岐にわたるため、「人権」に重きをおき、「誰ひとり取り残されない」という視点から考えることができるようにした。教室の出来事は、「気候危機、多文化共生、貧困・平和」をどのように繋がり、「SDGs」達成のために何ができるかを「体験」を通して学ぶ。そして、「演劇」を通して、自分の見方、感じ方、考え方の枠を超えた「当事者」の視点からのまとめる表現とした。</p>
---	---

【4】展開計画（全6時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材・資料
1	中村哲さんの生き方から学ぶ(リモート学習)	アフガニスタンの気候危機について理解を深め、中村哲さんの生き方を通して人道支援、国際協力について考える。	教材: PC、ワークシート
2	SDGs って何? フォトランゲージ	SDGs って何だろう? 身近なところから考え、行動していくことの大切さをグループワークから気づく。フォトランゲージでは、5か国の写真から、推測・想像してテーマごとにランキングし、それぞれの国のよさや課題を考える。	教材: PC、ワークシート
3	気候危機	気候危機によって、私たちの世界はどのように変化してきたかを知り、持続可能な開発について考える。また、グレタ・トゥーンベリさんの「学校ストライキ」から、一人ひとりが声をあげ、行動していくことの大切さを知る。	教材: PC、色画用紙、ゴールカード、ふせん、感想文シート

4 本時	多文化共生	日本に住む外国人の人権と多文化共生について、外国人の人々が「日本で生きる」ことよさと課題を多様な視点から考える。	教材：PC、啓太（チュムナ）さんカンボジアから、感想文シート（WS）
5	演劇ワーク	グループでSDGsの17の項目から1つにテーマをしぼり、テーマから現状や課題などをもとにストーリーを決める。演劇として発表するための話し合い、役割を決め、発表準備する。テーマのゴールをグループで話し合う。	教材：演劇ワーク資料、ワークシート（各班）
6	演劇発表会	グループによる演劇発表を行い、現状と課題を創意工夫して伝える。相互評価を行い、よさや工夫、発表内容について考える。「SDGs×西中 誰ひとり取り残されない」をテーマに取り組んだこれまでの内容を振り返る。私たち一人ひとりが社会のしくみを問い直し、声を上げ、行動するきっかけとなるようにする。	教材：振り返りシート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	●この授業のテーマ・主題について知る	○「今日は、日本に住む外国人について多様な視点からみつめ、外国人の人々の「人権」と「共に生きること」とはどういうことだろうということを考えていきます」 〈Power Point〉①	☆「啓太（チュムナ）さんカンボジアから」 (NPO 法人)開発教育協会
展開 (40分)	●啓太（チュムナ）さんカンボジアから	○「日本にカンボジアから難民としてきた啓太（チュムナ）さんの生き方を文章から考えていきましょう」 〈Power Point〉②～⑤ ・教師が読みながら、生徒に気になる点をアンダーラインに引かせていく ・インドシナ難民として自分のルーツを言えず、つらい思いをしてきたのはなぜか？ ・「誰にでも平等に接してほしい」啓太（チュムナ）さんから見えてくる日本の姿を想像する ○映画「東京クルド」予告編の紹介 〈Power Point〉⑥⑦ 「世界には、故郷をさまざまな理由から逃れ、難民として生きる人々がいます。これから紹介する映画「東京クルド」予告編では、トルコから難民として日本にやってきたオザンとラマザン二人の物語です」 ・「東京クルド」視聴（約2分） 「彼らの必死に救いを求め懸命を生きようとする姿をみてみなさんはどう思いますか？」 〈Power Point〉⑧	☆映画「東京クルド予告編」 故郷（トルコ）での迫害を逃れ、小学生のころ日本にきたオザンとラマザンの物語。彼らは難民申請を続けるが日本の難民認定率は1%満たない。いつ入管に收容されるかわからない不安を感じながら、夢を抱き、将来を思い描いて生きている
	●日本に住む外国人について	○「日本で住む外国人の数はどれくらいだろう？」 〈Power Point〉⑨～⑪ ・答え（約300万人 日本の人口の42人に1人が外国人） 「日本に住む外国人の「在留資格」ってなんだろう？」 ・さまざまな資格があるが、具体例を示しながら見ていく	

<p>● 技能実習生について</p>	<p>○「私たちの生活の中でも外国人の人びと関わりがあります。例えば、みんなが利用するコンビニには、たくさんのお弁当が販売されています。そのお弁当は誰が、いつ、どこで作られているのでしょうか？」</p> <p style="text-align: right;">〈Power Point〉 ⑫～⑭</p> <p>「私の今日のランチはこれです！」</p> <p>・映像「コープネットの旬鮮フレッシュ便・朝穫りレタス編」視聴</p> <p>「朝2時から畑に行き、新鮮なレタスを収穫する人たちの中に技能実習生の人がありました。スーパーマーケットで売られている新鮮なレタスは、私たちが寝ている間に収穫されたものです。私たちの便利で快適な生活は、見えないうさまざまな人に支えられています」</p> <p style="text-align: right;">〈Power Point〉 ⑮～⑰</p> <p>○「今から外国人労働者たちのいまの姿を新聞から読み解いていきます」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○×クイズ、朝日新聞オピニオンより ・技能実習生制度の現状は課題が多い ・長時間労働や過酷な労働条件で体調を崩したり、失踪したりするケースもある ・日本人による差別的な扱い、仕事は日本人が働きたがらないところなど雇用の調整弁となっている ・技能実習生をうまく受け入れている企業や産業なども多いが、その場合その地域や企業が継続的に彼らを必要とし、育てていくという方向性が明確にある <p>○毎日新聞「斉藤幸平の分岐点ニッポン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『資本主義の先へ 差別にあえぐ外国人労働者たち 社会通念の変革、自分事として』 <p style="text-align: right;">〈Power Point〉 ⑱～㉕</p>	<p>☆法務省</p> <p>「在留資格」とは外国人が日本に入国する際に必要な身分や活動範囲を示す法的資格</p> <p>★技能実習生</p> <p>開発途上地域の労働者を一定期間、技能実習生として日本国内に受け入れ、企業等の産業現場で技能・技術・知識を修得させる制度。国際貢献が目的。実習期間は最長5年間。日本で働く外国人を在留資格別に見たとき、4分の1近くを占めるのが約40万人の技能実習生</p> <p>☆コープネットの旬鮮フレッシュ便・朝穫りレタス編</p> <p>長野県川上村はレタスの収穫シーズンになると、人口約4千人の村で、働く外国人技能実習生は約1千人にもなる</p> <p>☆朝日新聞オピニオン</p> <p>☆毎日新聞「斎藤幸平の分岐点ニッポン」</p>
<p>● 「言葉がわからない」を体験しよう</p>	<p>○「今から、みなさんが外国に行ったという設定で、『言葉がわからない』を体験してもらいます。それぞれの場面で、その時どんな気持ちになるかを感じながら活動してください」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お腹が痛いよ～」薬を買う時 ・「何かが起こった、さあ、そんなときあなたはどうか行動する？」災害編 	<p>○「言葉がわからない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬（ネパール語） <p>左から薬・水・毒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災（スペイン語） <p>左「非難するときはこの道をたどってください」</p>

<p>まとめ (5分)</p>	<p>●振り返り</p>	<p>・「仕事をしよう1」履歴書編 ・「メニューを選ぼう！」チュニジアのレストランにて</p> <p>○「体験を終えてどんな気持ちですか？」 「日本に住む外国人の気持ちについて、授業の最初と最後ではどのように変化しましたか？」 ○この授業を通して学んだことや考えたことをまとめる</p> <p>〈Power Point〉㊾</p>	<p>い」 右「避難時はこの道を使わないでください」 ・仕事をしよう(韓国語) ・メニュー(アラビア語) 上から 大きな揚げ餃子、白身魚のムニエル、モロヘイヤスープ</p> <p>○WS 記入</p>
---------------------	--------------	---	--

【6】本時の振り返り

「多文化共生」という内容は、難しいかもしれないと予想し、できるだけ生徒が関心を持って取り組むことができる内容になるように資料、映像などを活用した。しかし、年々、日本に外国人の人が増えていることは生徒も生活の中で実感していたようで、違和感なく授業を進められた。最初の「啓太(チュムナ)さんから」では、「難民」といっても様々な環境の中で生きる人々がいることを初めて知り、課題に目を向け、真剣に考えることができた生徒が多くいた。

また「技能実習生」が置かれている境遇には、心を痛み、なぜこのようなことになるのかと疑問に思う生徒がいた。「多文化共生」における課題を知るきっかけとしては、全体的にはうまくいったと思う。しかし、一時間の中で扱える内容に限りがあるため、その一部をきりとった形になってしまったので、もっと多面的に考えを深める必要があると考える。よって、この授業で終わることなく、継続的に「多文化共生」について多様な視点で展開していける内容を実践していきたい。生徒が授業内で「日本国籍」や「第三国定住希望者募集」などの用語などもわからないことが多くあったので、基本情報を事前にやさしい言葉で説明し理解しておくことも大切だと思った。

最後の「言葉がわからないを体験しよう」では、自分が外国人として外国で生活することを疑似体験し、その時々にかかる心の変化に体験を通して気づくことができた。そして「共に生きる」とはお互いの違いを大切に、相手の生き方に思いを馳せ、支え助け合いながら生きることが実感できたと思う。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

生徒の感想

「多文化共生」・技能実習生は日本に行く前と行った後の気持ち、すごく変わってしまったなと思いました。でも、なぜ日本の人は技能実習生にひどいことをするのだろう、そこがよくわかりません。もし外国の人が来て困っていたり、助けを求めていたりしたら、すぐ助けようと思いました。自分も外国に行ったらそのように助けてほしいからです。・日本が快く難民や外国の人を受け入れられる国になってほしいと思いました。外国の人が差別を受けているのを初めて知りました。これからは差別をしない国になりたいと思いました。もっと SDGs のことを知りたいと思います。チュムナさんのような困っている人を減らしたいです。・私は、日本は外国人の扱いがひどいなと感じました。技能実習生の人は家族と一緒に来日できないことや時給が安い。それに生活環境が悪いところに住まわされて、休みが1年間で3日などがあるそうです。技能実習生の人は、言語が違う日本でがんばってくれているのに、こんな待遇を受けていることは、変えていかなければならないと思います。

中村哲さんの生き方から学ぶ(リモート学習)

・自分の意志でアフガニスタンに行き、たくさんの人を救おうと人のために行動していてとてもかっこいいと思う。目の前のことから目を背けず、努力しつづけることはとても大事なことだと気づいた。たった2%でも豊かな土地をつくったことで平和になったので、中村さんがしたことはとても意義があったと思う。たった2%ではなく2%もの人が救われたとわか

った。大干ばつによって、水・農業・食料・病気など様々なことが影響を受けているとわかった。そして、緑を増やし、土地を豊かにすることで争いや戦争などを忘れ、平和な暮らしを守っていけることも中村さんから学べた。

・中村さんの生き方は、どんな人にも対等に接し、人を助け合うことに喜びを感じる、人を傷つける人も見捨てない素晴らしい方だと思います。この人は、助けを求めている人のことを「助けてあげる」と考えていたのではなく「手を貸して協力する」と考えているのがしみじみ伝わってきました。私は、見ず知らずの人がたくさん倒れていても、中村さんのような行動はとれません。「人のためにしたと思っていた行動が結局は自分のためにやっていた」というお話を聞いて、中村さんのような素晴らしい行動ができるようになりたいと思いました。

SDGs って何？・フォトランゲージ

・豊かだと思国が持続可能な暮らしではないことと考えたから、豊かな国も暮らしを変えていくべきだと思いました。アメリカは、食糧の数や種類がたくさんあるけれど、野菜が少なく栄養バランスが悪いと思いました。けれど、食品の量が多い方が楽しいし、豊かだと思いました。・国によって家族の人数、食べるもの量が違ってびっくりした。いろいろな面から、国の食生活を見て、順番が変わったりするんだな。「持続可能な暮らし」「長い目で見ると」って考えたら、ドイツだなあ。どの国も幸せそう！・日本などは、自分がほしいものがあるが、その分ゴミが多く出ることがわかった。・それぞれに違いがあり、共通点もあることが改めて分かった。各国の幸せがあるなと思った。・マリとアメリカの豊かさの違いが大きかったから、なるべく公平になってほしい。

気候危機

・学生が学校を休み、抗議をおこすなんてとても勇気のいることなので、すごいなと思いました。口で言うことは簡単だけど、実際に行動して変えていくのは、難しいことだと改めてわかりました。でも一人ひとりの小さな行動が大きなことを救うこともわかりました。私の今できることをがんばりたいと思いました。・グretaさんはわずか17歳で首脳の人に環境に訴える姿を見て、他人事ではないことを知りました。また、4つの目標についてゴミをできる限り捨てないという共通点があったので、そのことについて気をつけたいです。「真実を知って未来を開く」という言葉は、これから環境について無視せず、行動すべきだという意味の言葉だと思うので、いつも意識しておくようにしたいです。・私は、自分の考えを大人たちに言える人たちがすごいと思いました。私は、こういう人たちが政治をしたらよくなるかもしれないと思いました。私は、あまり政治のことを理解せず大人の言いなりになっていたのかもしれないと感じます。自分の考えが正しいと思うならつき進んでいいと自信をくれるような人たちに憧れます。私はそんな人になりたいです。・グretaさんがすごく説得力がありました。ゴミを出さないために、再利用するのが大事だと思います。最近スタバのフラペチーノのストローが紙になり、工夫している店が増えてきました！環境って身近なものだから、私たちの世代、この先も大切に受け継いでいきたいなと思いました。

演劇発表会

・クラスでみんなの前で発表して、もちろん自分たちが発表したことは深く考えることができた、そして、他の班の発表も聞いて深めることができてよかったです。・クラスの班の劇をみて、みんな今まで習ったことをしっかり演劇としてみんなに伝えることができたと思う。他の班を観て、いい発見をたくさん見つけることができた。・他のグループなどの発表は、同じ目標でも内容が違っていたりして楽しかったです。発表の時、ミスしてしまったけれど、楽しかった。他国の状況や、政治、宗教など、わからないところはたくさんあるけれど、わかるところだけでも理解したい。・一つ一つの班に個性があってよりSDGsの大切さを知った。もやもやした気持ちはあるけれど、解決する方法を少しずつでもいいから考えたい。・みんなおもしろいしわかりやすいしすごく上手ですてきでした！！たった3分の劇でもすごく頭の中に入ってきてそれが演劇のすばらしさだと思いました。・ほとんどの班がスラスラ、ハキハキと言っていてすごいなと思いました。全てSDGsについて詳しく調べてくれて、わかりやすく伝えるための工夫をしてくれていたからとても勉強になった。・それぞれ考えられた表現方法や工夫、ネタなどがありました。それは、おもしろく学べるものでした。SDGsの取組みを劇という形でしたが、ポイ捨て、環境、平等などの内容で見ている、身近にもこういうことが起こり、それが積み重なって問題が大きくなってきた。今を変えなければと改めて思いました。・みんなに伝えたいことをしっかり伝えられているなと思いました。動きで表現しているものも見ていて楽しいなと思いました。・どの班の発表も上手でわかりやすかったし、とてもおもしろかったです。特に2

班の発表が昔話と海洋ゴミをかけていておもしろかったし、わかりやすくよかったです。また、班で発表することをした。・それぞれSDGsについて詳しく知ることができる発表でそこにおもしろさ等の工夫がたくさん入っていました。17の目標を守らないとどうなるかそのためにどうするかがよく分かるものがとても多かった。・みんなミスもあったが、精一杯やっていて見ていて楽しかった。あと、発表の仕方がみんな違ってよかった。行動があって、共感しやすかった。多くの問題や課題が知れた。全体の発表を見て、自分のグループよりクオリティが高く、演技力が高くてすごいと思いました。そして、説明もしっかりしている班があり、ペットボトルや袋を持参している班もあり、とても表現に工夫していてよいと思いました。・みんなそれぞれ違う場面でいろんなことがわかった。同じゴールでも内容が全然違った。演劇でいろいろな個性がみれた。これでSDGsについてみんな考えることができるから、環境が少しでもよくなったらいいと思った。・他のグループで一番よかったのは、7班でした。短い時間で、食品ロスを防ぐためのことについて、わかりやすく伝えてくれたのでとてもよかったです。それぞれの表現方法や伝え方がありました。身ぶり、手ぶりを使ったり、物を使って表現したり、しゃべり方を工夫していたり、色々なやり方を見ることができました。全員、役にあったしゃべり方ができていて、すごいと思いました。内容がどの班もとてもよくてすごいなと思いました。プラスチックについて以外にも女性差別もあっていいなと思いました。・どの班もわかりやすかった。中に画像を使ったり、作って表したりしてよかった。声の大きさ、おもしろさもあって楽しかった。演劇で改めてSDGsのことがわかった。これからは海で物を捨てたり、プラスチックを再利用したりしたい。・いろいろな班が自由なアイデアでSDGsをもとにして劇を進めていって面白かった。内容が重なることが懸念だったので、順番が3番をとれたのはよかった。これまでの学習を通して、自分にできることがあるのでやっていきたい。

生徒の変化

SDGsが自分たちの身近な問題だと感じた生徒が多く、興味を持つ第一歩となった。自分の視点から、物事を見るだけでなく、視野を広げ、気候危機や多文化共生を通して、地球規模で物事を見つめ、困難な状況にある地球環境や当事者の気持ちに寄り添うことができた。そして、遠い世界の話ではなく、自分たちの身近なものとして発言や感想、演劇、行動変容へ還元することができた。一時的な学習で終わらせず、今後もその都度、立ち戻り考える機会を継続して持ちたい。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

この取組みは6時間であったが、1学期の総合で「共に生きる」というテーマで5時間の取組みを行っていた。内容は「もしも世界が100人の村だったら」「JICA国際協力出前講座」「とよなか国際交流協会出前講座」「ドキドキワールド（吹田市）」「アフリカステップに挑戦！」と国際理解教育が中心であり、今回のSDGsに関連することも多く、一連の流れの中で取組みが進められたことは有意義で生徒も継続的に取り組むことができた。9月に入り、1回目の「中村哲さんの生き方から学ぶ」では、分散登校中のリモート学習で行った。パワーポイントでの説明の後、一時間の動画を各自が視聴し、その後まとめを行う内容だったが、1学期と2学期の総合のつながり的な内容で、生徒も真剣に考えることができていた。「環境危機」「多文化共生」では、写真、動画、資料などを用い、できるだけ生徒が主体的に学習を進められる内容にした。そこでは、難しい内容ではあったがものの、生徒は関心を持ち意欲的であったため、こちらもとてもやりがいのある授業を展開できた。

SDGsの取組みのまとめで行った「演劇ワーク」では、4～5人のグループに分かれて17のゴールからテーマを決め、現状や課題、解決方法を創作演劇で創った。その際に、生徒の方から、「〇〇の国の中学生は学校に行けるの?」「貧困って具体的にどんな状態?」など、演劇ワークを通して「主体的に学ぼうとする」姿が多く見られた。そして、いろんな人の気持ち、身の回りの生き物や環境に目を向け、独自の視点を大切に、短時間で演劇を創り上げることができた。演劇発表会では、バラエティー豊かな内容でそれぞれが必要な要素を取り入れながら、自分たちの主張を表現することができ、発表者、鑑賞者ともに充実した時間となった。

それぞれの授業後には、できるだけ多くの生徒の感想を「学年だより」を通じて伝え、生徒同士が思いや考え、多様な意見を共有できる機会を持ったことでただ学んだだけで終わらせない、実生活につながりをもつ工夫を行うことができた。今後も継続してこの取組みを行っていきたい。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】

(授業前) 日本に住む外国人に対して、深く考えたことのなかった生徒が多かった。自分たちの身近に外国人はいるもの日本人と同じようにさまざまな自由や権利があり、日本は豊かな国だから、幸せに暮らしていると思った。

(授業後) 日本に住む外国人にはさまざまな在留資格があることを知って、その中にはとても不安定な中で、仕事や人権が保障されていないことを知って悲しく残念に思った生徒が多くいた。「技能実習生」に関しては、日本に夢や希望をもって来日しても、このような悲惨な現状を目の当たりにし、日本人として申し訳ない気持ち、やるせない気持ちを感じながら学習を進められた。「難民」の人が日本で差別的な扱いを受けていることを知り、「不法滞在者」にもさまざまな立場や環境の中で生きている人がいることを知り、物事を多面的な視点で見ることの大切さを実感した。もしも自分が言葉のわからない外国に住むとしたら、どんな不自由があるか、疑似体験を通して知り、今回学んだ「技能実習生」「難民」などの日本に住む外国人の人たちの気持ちを想像でき、大変さや不安の中で生きているということを感じられた。全体を通して、現状を理解し、これから何が必要か、どう生きることが「多文化共生」にとって大切かを考えることができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	<p>・「SDGs」の中で限られた時間で必要な内容を選ぶことに苦労した。それが、生徒が問題意識をもてるか、これらかの行動に影響を与えるか、これからの生き方のヒントになるか等、できるだけ生徒が興味をもち、学んだことが日常に還元されるような教材選びに時間をかけた。「中村哲さんの生き方から学ぶ」では、リモート学習だったため、生徒の反応を見ながら授業を進められなかった。「フオトランゲージ」や「気候危機」に関しては生徒の関心が高いと予想していたので、内容を深めるような教材づくりに苦労した。「多文化共生」の内容の選択後は、第一に現状を正確に伝え、研修で学んだことをもとに書籍などの資料を集めた。自分の学びを深めながら、生徒に向けてはできるだけ一般的な用語を使用し、受け入れやすいような教材づくりの工夫を行った。「多文化共生」の内容は、基本の用語などから生徒に伝える必要があったため、限られた時間内で難しいことがたくさんあった。学んだ内容を「発表」する形態は今回「演劇」を取り入れたものにした。体験し学ぶことを重視したため、この内容となったが、生徒の動きが予想困難だったため、発表が終わるまでハラハラ・ドキドキした。</p>
2. 改善点	<p>「多文化共生」は基本的情報を生徒全員で共有することで、学習に深みや広がりを持つ授業を展開できると思った。よって、内容に対して、もう少し時間をかけて継続的に学習を進めていく必要がある。</p>
3. 成果が出た点	<p>難しい内容をできるだけわかりやすく、学びたいという気持ちを持つような授業を進めていくことができた。授業者として6時間を終え、教科担任として美術の授業で関わってきた以上に、この学習の中で生徒との距離が近くなり、美術の授業においてもよい影響となった。それは、やはり「総合的な学習の時間」で行った「SDGs × 西中 誰ひとり取り残されない」の取り組みが生徒にとって有意義であったということ、そして、この学習を通して、人として大切にしなければいけないこと、世界のことなど、一人ひとりの「生き方」に関することを共に考えられたからではないだろうかと思う。</p>

参考資料

文献：「SDGs クイズ図鑑」 笹谷秀光、「SDGs 入門」 JICA、「日本の SDGs それってほんとにサステナブル？」 高橋真樹、「グレタ たったひとりのストライキ」 マレーナ&ベアタ・エルンマン・グレタ&スヴァンテ・トゥーンベリ『人新世の「資本論」』 斎藤幸平、毎日新聞、朝日新聞、「地球の食卓」「啓太（チュムナ）さんカンボジアから」(NPO 法人)開発教育協会

サイト：映像：NHK for School、BBCニュース、クーリエ・ジャポン HUFFPOST、Hope、BBC NEWS JAPAN、国際連合広報センター、WWF 法務省、映画「東京クルド」予告編、コープネットの旬鮮フレッシュ便・朝穫りレタス編 ETV 特集 「武器でなく命の水を」 医師・中村哲とアフガニスタン

1年生・総合「共に生きる」

「多文化共生」

「SDGs×西中 誰ひとり取り残さない」

日本にカンボジアから難民としてきた啓太（チュムナ）さんの生き方を文章から考えていきましょう

啓太（チュムナ）さん（カンボジアから）



開発教育協会

インドシナ難民として自分のルーツを言えず、辛い思いをしてきたのはなぜか？

「誰にでも平等に接してほしい」啓太（チュムナ）さんから見えてくる日本の姿を想像してみよう

世界には、故郷をさまざまな理由から逃れ、難民として生きる人々があります

今から紹介するのは、トルコから難民として日本にきたオザンとラマザンのドキュメンタリーです

映画「東京クルド」予告編

彼らの必死に救いを求め懸命生きようとする姿をみてみなさんはどう思いますか？


日本で住む外国人の数はどれくらいだろう？

「言葉がわからない」
を体験しよう

風邪をひき、熱があります…



薬を買いに薬局まで行きましたが、..


言葉がわからないあなたほどの薬を買いますか？

① **विष** ② **पानी** ③ **औषधी**

「何かが起こった、さあ、そんなときあなたはどの行動する？」





Quando se refugiar, siga este caminho; No use este caminho na hora de refugio.

「仕事をしよう」履歴書編

	도도	시구
주민표에 기재되어 있는 주소	부현	정촌
관리가나	전화 번호	()
성명		-

「メニューを選ぼう！」チュニジアのレストランにて

قائمة
زلاية مقلية كبيرة في تونس
مونير عربي من السمك الأبيض
شوربة مروحية



日本に住む外国人に対する気持ちについて、授業の最初と最後ではどのように変化しましたか？

この授業を通して学んだことや考えたことをまとめましょう